

Philippines summer camp 2011



Place: Matag-ob, Leyte, Philippines

Time: 8/21st ~ 9/10th (for 21 days)



目次

1. はじめに 2

2. FIWC とは 3

3. 重要人物紹介 4

4. 事前・下見スケジュール 6

5. 調査を行った村 8

6. 2012 年春ワーク活動内容 10



7. ワーク地決定経緯 13

8. ワーク Evaluation 報告 14

9. 文房具 Evaluation 報告 20

10. 生活状況 22

11. KP (Kitchen Police) 報告 25

12. 会計報告 26

13. 保健報告 28

14. 他己紹介 30

15. 感想 32



1. はじめに

2011 年夏
私たちの目指すキャンプ
「人與人」を大切にすること。

“人”って？

日本人？フィリピン人？

一緒にお酒を飲んだり
一緒に歌ったり
たまには真面目な話をしたり

そんなことしているうちに
いつのまにかそんな粋なんて
どうでもよくなる。

でもやっぱり
お互いの文化を理解すること
それは忘れちゃいけない。

粋なんてとっばらって

お互い歩み寄って一緒に考えよう。

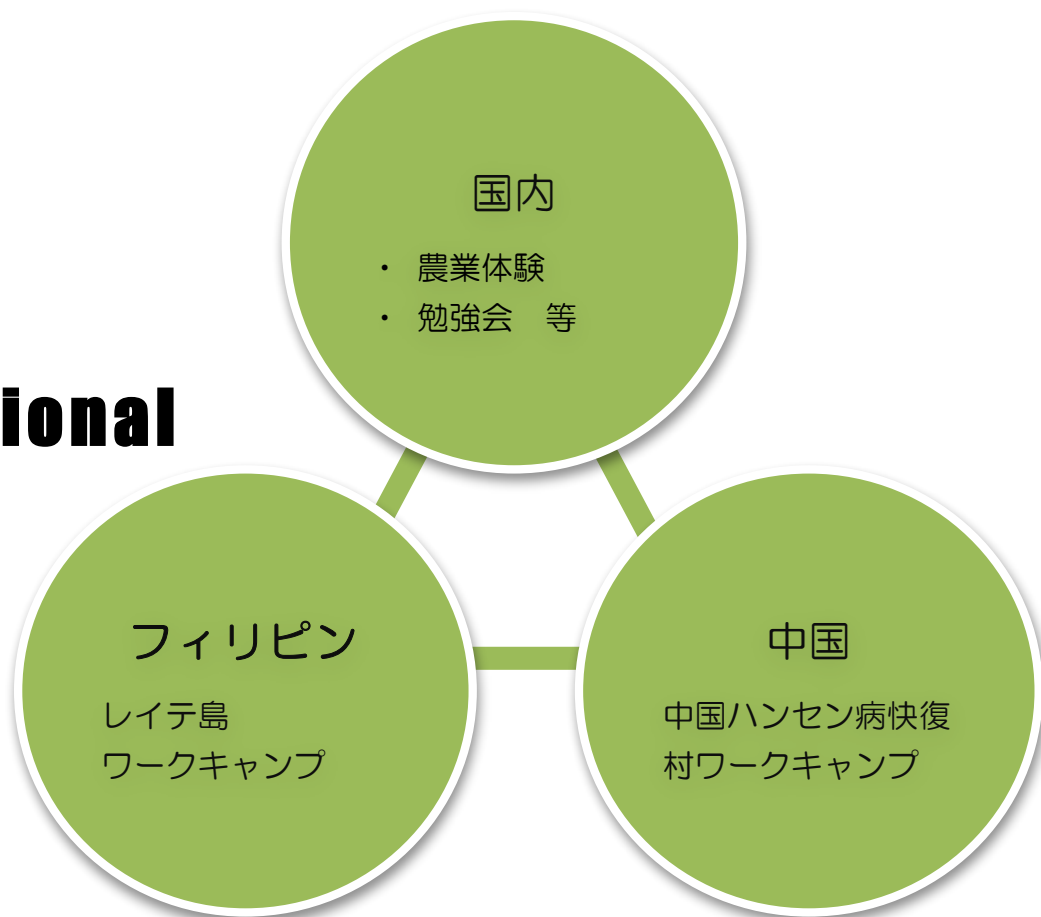
未熟な私たちだけど

私たちにしかできないことが

きっとあるはず。

2. FIWC とは

Friends International Work Camp



FIWC九州は九州(主に福岡)の大学生が主体となり学生のみで国内外で国際協力活動を行っている学生NGO団体です。

国際活動

- ◆ 中国キャンプ
ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。
- ◆ フィリピンキャンプ
フィリピンレイテ島の貧困村を訪れインフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

国内活動

- ◆ 耶馬溪キャンプ 年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。
 - ◆ FP(FIWC Party)
月 1 回第 4 土曜日に「びおとーぷ」で行うワークショップ形式の勉強会。
- 他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海、広島、お台場に支部があり、互いに情報交換を行いながら、それぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンプメンバーだけでなく国内活動にも一緒に参加してくれる大学生を募集中!!

3. 重要人物紹介



現地のエンジニア：ロクロクさん

1999年からFIWC 関東の活動に参加して下さっている現地のエンジニア。FIWC 九州発足後は九州の活動をプロジェクトのみに関わらず、キャンプをさまざまな面からサポートしてくださっている。ほとんど毎日下見に参加してくれ、現地人との仲介役としてサポートしてもらった。フィリピンの文化、政治や言語など様々なことを教えてくれたり、何より一番に私たちの体調を気遣ってくれたり、FI 九州のキャンプになくてはならない存在。たまに親父ギャグが飛び出します。

マサバ村の村長：ピロ

次のワーク地に決定したマサバ村のカピタン（村長）。笑顔が素敵なジェントルマン！！でもお酒が入るとおちゃめなオジさんになっちゃいます。笑



坂本実玲さん（通称 Merry）

JICAの青年海外協力隊の派遣により、2010年の秋からマタグオブ市の市役所に滞在している日本人。2011年春のキャンプからFIWC九州と交流があり、今回の滞在中は巧みなビサヤ語でevaluationでもとてもお世話になりました。次のプロジェクトでは私たちが日本にいる間の現地⇄FIWC九州の仲介役をしてくれ、かなりの重要人物です。普段はとても優しい私たちのお姉さんの存在♪

ダディドドン&マミーサニー

2009年のワーク時にお世話になり、それから私たちの活動をサポートして下さっている元副マダグオブ市長夫婦。今回の下見期間中はダディ宅にステイさせてもらいました。マミーの料理は絶品！！フィリキャン名物(?)「ラミ！（美味しい）」ばかり言ってるダディだけど実はものすごい人物だったり……。とっても仲良しな夫婦です♪



マラサルテ村の村長：レティ

前回のワーク地、マラサルテ村のカピタン（村長）。今回マラサルテ村に滞在した5日間、食事はカピタンの家でお世話になり、また女子メンバーは二階に泊めさせてもらいました。マラサルテ村みんなのお母さんです♪雨ガッパ姿のカピタンはとても可愛かった！笑

NorWeLeDePAI

(North Western Leyte Development Parent's Association Inc.)

FIWC九州と、2004年の下見から協力体制をとっている現地のNGO団体。FIWC関東とも協力しており、フィリピンにおけるワークキャンプでは重要な存在である。この団体は、レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、世界的なNGOであるWorld Visionのドイツ支部から資金援助を受けている。2011年9月からオフィスがOrmocから車で15分ほど離れたルナ村に移転した。今回の下見ではキャンプ中パスポートなどの貴重品を預かってもらうなどでお世話になった。※写真は旧オフィス



4. 事前・下見スケジュール

▼キャンプ前日程

6/7	第1回 MTG@あすみん	8/7	第6回 MTG@あすみん
6/21	第2回 MTG@あすみん	8/19	第7回 MTG@あすみん
6/28	第3回 MTG@あすみん	8/21~9/10	下見キャンプ
7/7	第4回 MTG@あすみん	9/15	第1回帰国後 MTG@あすみん
7/12	第5回 MTG@あすみん	10/22	フィリピンキャンプ報告会@びおとーぷ

▼キャンプ行動日程

▼大まかな流れ

8/21	17:55 発福岡空港→21:30 着&22:00 発マニラ空港→23:00 着セブ空港 セブ島で一泊 (シランガンホテル)	
8/22★	5:45 発セブ港→8:05 着オルモック港 (レイテ島) ノルウェルでロクロクさんと合流&MTG ドドン&サニー宅に宿泊	
8/23★	カンソソ村の survey サンセバスチャン村の村長に夕食を招待される	
8/24★	サンドネシオ村とマサバ村の survey	
8/25★	表敬訪問 リバーサイド村の survey	
8/26☆*	サントロサリオ村の現状視察 サンマルセリノ村の survey *マラサルテ村に滞在 (2泊3日)	
8/27	前回ワークの evaluation&バスケの試合見学	
8/28	ワークの evaluation&バスケの試合見学 ドドン&サニー宅に移動	
8/29★	ビラバの資材屋にキャンプ中の資材について確認	
8/30★	バラクタス村の survey サンセバチャン村、タタイボニンの誕生日パーティに招待される	
8/31★	市のエンジニアとマサバ村とカンソソ村のワーク概要の確認 カンソソ村再訪 最終候補地決定のための MTG	
9/1★	マサバ村再訪 本キャンプ地はマサバ村に決定!! 以上で下見終了	



* 表敬訪問…マタグオブの市役所を訪問。
市長さんに挨拶・警察署にパスポートのコピーを渡す。

※GAM (General Assembly Meeting) …通称ジェネアセ、村人を集めてワーク、
FIWC について説明し理解を得る場

★印はロクロクさんが FI に一日中協力してくれた日。☆は半日 主に土日はお休み

*マラサルテ村…前回キャンプのワーク地

*サントロサリオ村…前々回キャンプのワーク地

5. 調査を行った村

<概要>

村	サンマルセリノ村	人口	900 人
問題点	水源の取水タンクと学校の裏にある貯水タンクは繋がってはいるが、学校に水は流れていない。現在は学校の隣の家から子供たちが水を汲みに行っている。		
場所と移動手段	サントロサリオ村からバイクで10分程度。		
備考	生徒数、約 100 人（デイケアも入れると 100 人以上） 昔ノルウェルの予算でパイプをつなげたが、パイプが小さく、現在は使われていない。		

<ワーク内容>

- ・ 取水タンクと貯水タンクの距離 500m をパイプで繋ぐ。
非常に簡単かつ安価なワークである。

<FIWC の判断>

非常に規模の小さいワークな上に、村側が独自のプラン（パイプを大きいものにして、新しい水源タンクをもう一つ作る。）を持っていたため、FI が介入する必要はないと判断した。

<概要>

村	リバーサイド村	人口	不明
問題点	雨が降ると川の水が 3 m 近くまで増水し、橋の高さを超えるため通行が不可能になる。		
備考	現在使われている橋も過去にあった大雨の影響で少し壊れており、幅が狭くなってしまっている。以前からこの状態であったものの、村長が現在の市長派に変わったので今回情報を手に入れることができた。		

<ワーク内容>

- ・ 今あるものよりも高さのある橋をつくる。
- ・ 川の片側の護岸工事。

壁のない側の家は川の水が増水した時に、その影響をもろに受けるため危険にさらされている。護岸工事は 60m 工事するのに 500,000P かかる。

<FIWC の判断>

FI には手が出せない非常に大きなプロジェクトである。農家の収穫が終われば村人を集めて橋の修理にとりかかる計画を村側が持っていること、そして市からの援助が見込まれていることからワーク地には選ばなかった。

<概要>

村	サンドネシオ村	人口	400~500
問題点	カンソソ村からサンドネシオ村に続く山道で、川を横断しなければならぬ。徒歩用の橋はあるが、雨が降った場合川が増水して非常に危険。		
場所と移動手段	移動手段は主に車、バイク、徒歩。バスは通っていない。		
備考	マタグオブのマーケットにココナッツやバナナを売りに行くのによく使われる道で、ダンプカーもよく通る。そのためより頑丈な橋が必要となる。		

<ワーク内容>

- ・ 車やダンプカーが通れるような大きくて丈夫な橋をつくること。

予算は 1,000,000P、ワーク期間は 2 か月

<FIWC の判断>

予算が高額、非常に大きなプロジェクトであるため FI には不可能であった。現地のエンジニアは、このプロジェクトは国レベルの問題であるため FI や村が解決する問題ではなく手を出さなくてよいと言っていた。



サンドネシオ村



リバーサイド村

《概要》

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市カンソソ村

内容：Foot Bridge の建設

《詳細》

村	カンソソ村	人口	700 人
問題点	村から町へ向かう道が常に浸水していて（足が浸かる程度）、雨の日は増水するため通行不能になり、子供たちは学校に行けなくなる。		
場所と移動手段	マタグオブの中心地から村まで 2 km、徒歩 30 分		

<ワーク内容>

- ・人とバイクが通れるぐらいの橋を作る（Foot Bridge Project）
- ・幅 1.2m、長さ 12m、高さ 3m、手すり付き

予算

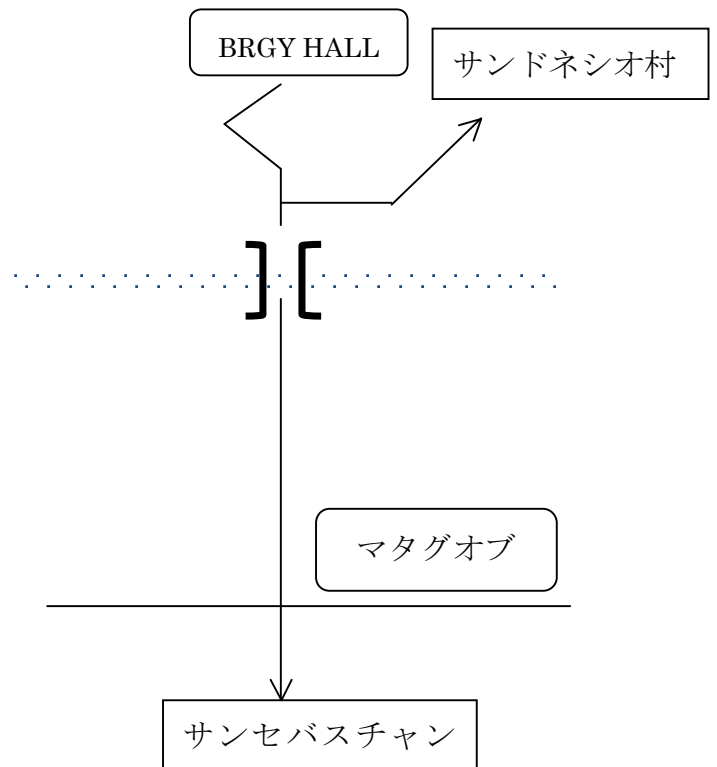
FIWC 125,000P

市 100,000P

総額 225,000P

ここの村人（特に山の上に住んでいる人たちは非常に貧しく、無償で働く余裕がないので若干の給料を市が払うことで労働力を確保する。

ワーク期間は 20 日間で予定していて、ワーク終了後 3 週間乾燥させてコンクリートが乾いて完成。



6. 2012年 春 ワーク活動内容

《概要》

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市マサバII村

内容：BRGY Road Facing（道の舗装）

予算

FIWC	P125,000（約 25 万円）
村	P80,000（約 16 万円）
市	P100,000（約 20 万円）
総額	P305,000（約 61 万円）

《詳細》

村	マサバ II 村	人口	900 人
問題点	雨や地質の関係でマーケットやマタグオブの学校までつながっている一本道の凹凸が激しく、車やバイクで移動することが容易ではなく数回往復をすると乗り物が壊れる程に険しい道になっている。大体の人は週に2~3回、片道徒歩2時間かけて買い出しに行く。6年生までの学校が村にはあるが、それ以上の学年は毎日通学にこの道を使う。		
場所と移動手段	公共交通機関（バス）は通っていない。マタグオブ市の奥地。		
備考	国のプロジェクトで村の公道（100M）のコンクリート工事が行われている。10月中旬に完成予定。今回とは別のプロジェクトである。		

<ワーク内容>

- ・村の公道 2km 分の舗装

舗装には2つ方法があり、可能ならばコンクリートによる舗装が良かったが、費用が100mにつき4,000,000Pと莫大な金額であるので、もうひとつの方法である砂や土で凸凹を埋め、上から圧力をかけて固めるといった方法をとることにした。なおこの方法ならば100mにつき10,000Pで済む。

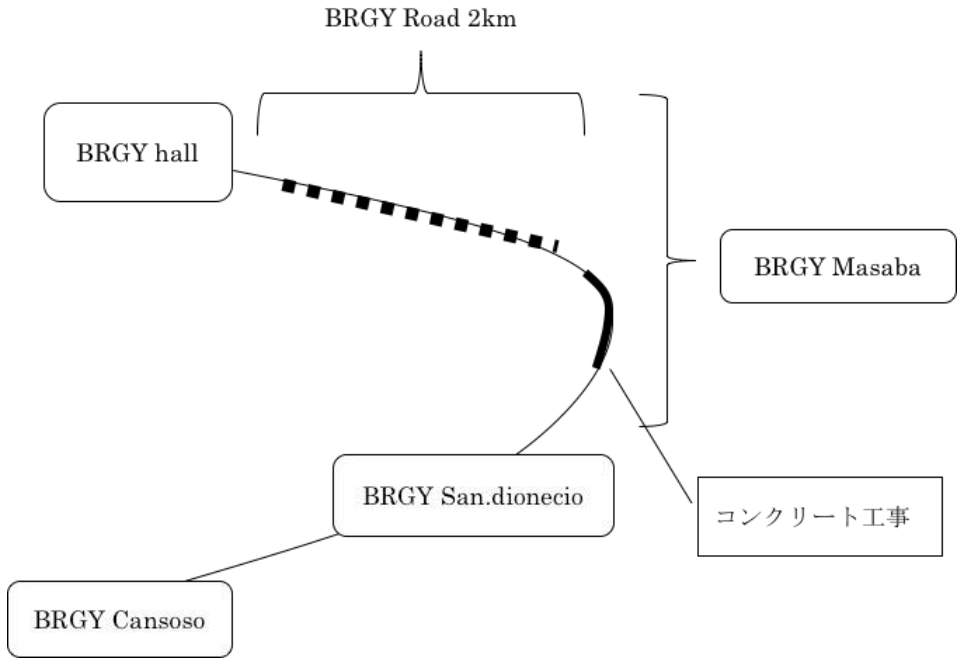
問題点

- ワークの期間が40日という長期間にわたるため、FIが滞在している間に完成させるためには事前にある程度ワークが進んでいることが必要
- 予算が市と村とFIの3つの団体からでているため、工事を3段階に分けて行うことになる

期間	予算（出所）
9月～10月	80,000P（村）
1月～2月	80,000P（市）
2月～3月	100,600P（FIWC）

FIは前述の予算とは別に、ワークに使う道具代とロクロクさんへの感謝料、緊急時に使う金銭として合計 20,000P を予算に組んでおり、FIの全予算は 125,000P となった。

FIのワークの期間は予定としては15日前後を予定しているが、FIが到着するまでにどれだけの工事が終わるかに依存しており、現地と連絡をとり日程の調整をする予定である。人員としてはFIが約15名、バヤニハンとして約15名を予定している。



7. ワーク地決定経緯

今回の2011年度の下見キャンプでは、まずキャンプ開始時にロクロクさんから提案があった。それは、最初にマタグオブ市の村のみを調査し、もしマタグオブ市でFIWCが可能なプロジェクトがなかった時に限りビラバ市の村を調査するというものであった。理由は以下の通りである。

- 私たちはマタグオブ市で長年ワークをしてきたが、ビラバ市は一昨年から下見調査を始めている。もしビラバ市に活動拠点が移れば、マタグオブ市にまた戻ってくるのは難しくなる。
- ビラバ市のシーラッド村などは2年連続で下見をしているため、3回目の下見は村側にかなり期待を持たせてしまう。
- 今回のテーマは【人と人】。キャンプにかかわる人達との関わりを意識したい。

そこで、私たちは見学のみも含め、マタグオブ市の7つの村を訪ねた。そしてワークのニーズや村人の雰囲気を中心に考え調査を終えたところ、最終候補地としてマサバとカンソソの二つの村が残った。

カンソソ村は市のエンジニアも協力的で、プロジェクトの規模的にもFIが手を出せる範囲内だった。しかし下見調査後、村長と村役員の対立が発覚した。FIとしては政治問題には介入したくなかったこと、あくまで中立的な立場を取りたかったためワーク地決定には至らなかった。

ワーク地決定のポイント

- プロジェクトの規模が大きいため、金銭面でFIがサポートすることで、市・村と協力してプロジェクトを行うことができるようになる。
- 村⇄市場の交通費が半額になる。
- ワークの規模が大きく、予算が3つの団体から出るため3つの期間に分割される。そのため私たちが日本にいるときのワークの進行状況が心配された。しかし青年海外協力隊として市役所に勤務する実玲さんがFIと現地の仲介役として今回協力してくれることになり、現地との連絡、ワークの進行状況の把握がしやすくなった。

8. ワーク Evaluation 報告

■What's Evaluation?

前回のワーク地を再訪し、前回行ったワークの現状を評価するもの。

今回の下見キャンプで前回のワーク地であるマラサルテ村で Evaluation を行った。

■2011 年度のワーク

【概要】

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市マラサルテ村

期間：2011 年 2 月 28 日～3 月 15 日（土日を除く）、3 月 20 日

内容：Water System（水道設備）の改善

参加者：FIWC 九州、現地エンジニア、村人

【ワーク内容】

前回のワークでは、水不足であった村の Water System の改善を行った。

この村の水不足の原因は主に 2 つであった。

- ・ Water Source（水源）のタンクの破損（ポリタンクで代用）
- ・ Water Source（水源）から BRGY（村）までのパイプが細い

この問題を解決する為に大きく分けて以下の作業を行った。

[FIWC 九州が当初予定していたワーク]

- ・ Water Source（水源）のタンクの作成
- ・ Water Source（水源）から BRGY（村）までのパイプを太いものに変更
- ・ BRGY（村）に増えた水量を貯水するためのタンクの作成

[新たに追加したワーク ※FIWC 九州は金銭的なサポートを行っていない]

- ・ 公共の水汲みタンクを 2 つ作成
- ・ 水汲みタンクをサポートする小さいタンクの作成
- ・ 村の中で使われているパイプを太いものに変更
- ・ 綺麗な水を得ることのできない地域にパイプをつなぎ、飲み水専用の蛇口を作成



プロパーの水汲み用タンク

■ ワーク後の状況

- **Water Source** (水源) の土砂崩れ防止用に両サイドに固めたコンクリートが、7月の大雨によって片方崩れていた。その崩れた部分から若干水が流れて出ているようだった。また、もう片方にもヒビが入っていた。村人は次大雨が来た時にタンクが崩れることを心配していたが、現地エンジニア曰く、崩れるならもう片方の補強用コンクリートの方で、真ん中のタンク自体はかなり頑丈に作っている為よほどのことがない限り大丈夫のこと。
- シティオ ボンボン (水源タンクから最も近い地域) では晴れの日が1週間続くと、水量が下がるようだった。私たちが村に滞在中プロパー (水源タンクから最も遠い地域) では晴れ4日目で、水が少ししか出なくなったと村人が言っていた。
- **Water Source** (水源) から 600m 離れたところに小さい **Water Source** (水源) があるらしく、そこに新しいタンクを作るプランを村が持っていた。しかし金銭的な問題でいつ作るかは未定。

■ Evaluation 結果

< 1 >

1. どこから水を得ていますか?

- 1) 飲料水 (回答者 12人)
- 水汲み用タンク (1人)
- **FIWC** が作ったタンク (3人)
- プロパーチャーチ裏のタンク (2人)
- 水源タンク (6人)
- 2) 生活用水 (洗濯や水浴び) (回答者 10人)
- 水汲み用タンク (5人)
- **FIWC** が作ったタンク (3人)
- 水源タンク (2人)



水源タンク 片方がなくなっている。

2. 水量・水質の問題はFIWCのプロジェクトによって改善されましたか? (回答者 12人)

Yes 12人 Not change 0人 No 0人

- 水質は良くなったが、水量に関しては時々下がる。
- 水質は良くなったし、自分の地域まで水が十分に来ようになった。
- 改善されたが、少し問題はある。

3. **FIWC 帰国後に Water System に何か問題はありましたか?** (回答者 13人)

Yes 9人 No 4人

(Yes の回答者)

理由

- ・ シティオ ボンボンで水をたくさん使うため、プロパーは少ししか水がこない。しかし水のことで双方が揉めるようなことはない。
- ・ 雨が降らなかつたらプロパーまで水がこない。
- ・ 暑い日や晴れが続くと水量が減る。(2人)
- ・ 村すべてに水が十分に行っていない。

(改善策)

- ・ 村にお金があれば別の水源を作りたい。(3人)

(※No 回答者：村長、村役員1人プロパーの住民2人)

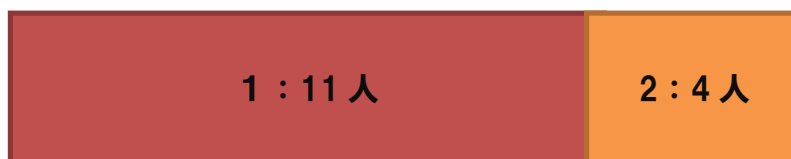
4. **新しい水汲みタンク、蛇口によってあなたは利益を得ましたか?** (回答者 11人)

Yes 10人 No 1人

- ・ 家の近くに open tank が出来たから遠くまで歩く必要がなくなった。
- ・ 水浴びや洗濯でよく使っている。
- ・ 蛇口を買うためのお金がない(No の回答者。質問の意味を理解していないと思われる。)

5. **FIWC のプロジェクトに満足していますか?** (回答者 13人)

(Good 1 2 3 4 5 Bad)



3,4,5: 0人

- ・ とても満足している。(1)
- ・ 村で一番の問題を解決してくれたから。(1)
- ・ 水がなくなれば雨で水浴びをしないといけなくなるから。(2)
- ・ 満足しているが、雨が降らなかつたら水がこなくなる。(1)

< 2 > FIWC がこの村に滞在したことをどう思いますか？ (Yes or No) (回答者 13人)

1. **FIWC メンバーと交流できましたか？**

Yes 13人 No 0人

2. **FIWC の行動に時々苛立ったことはありましたか？**

Yes 1人 No 12人

3. **FIWC がこの村に滞在したことで楽しめましたか？**

Yes 13人 No 0人

4. **FIWC メンバーはフィリピンの文化を理解、尊重していましたか？**

Yes 13人 No 0人

5. **FIWC の活動目的をどのように思っていますか？**

- ・ 十分な水を確保することによって村人を助ける。
- ・ 私達の地域を助けること、フィリピンの文化を知ること、友達を作ること。
- ・ フィリピン人を良く理解している。
- ・ プロジェクトを通して村人を助ける。
- ・ フィリピン人と友達になる。

< 3 > FIWC が改善できる問題が他にありますか？ (前回のワークの改善を除いて)

- ・ シティオ ボンボンに比べてプロパーの水が少ない。
- ・ 別の水源がほしい。プロパーの下に井戸があるのでお金があれば電動ポンプで水を引きたい。
- ・ 晴れの日に必要な水を確保できなくなるため、もう一つ別の水源が必要である。
- ・ FI がタンクを作って **water system** を改善してくれたので問題は特にない。

【総括】

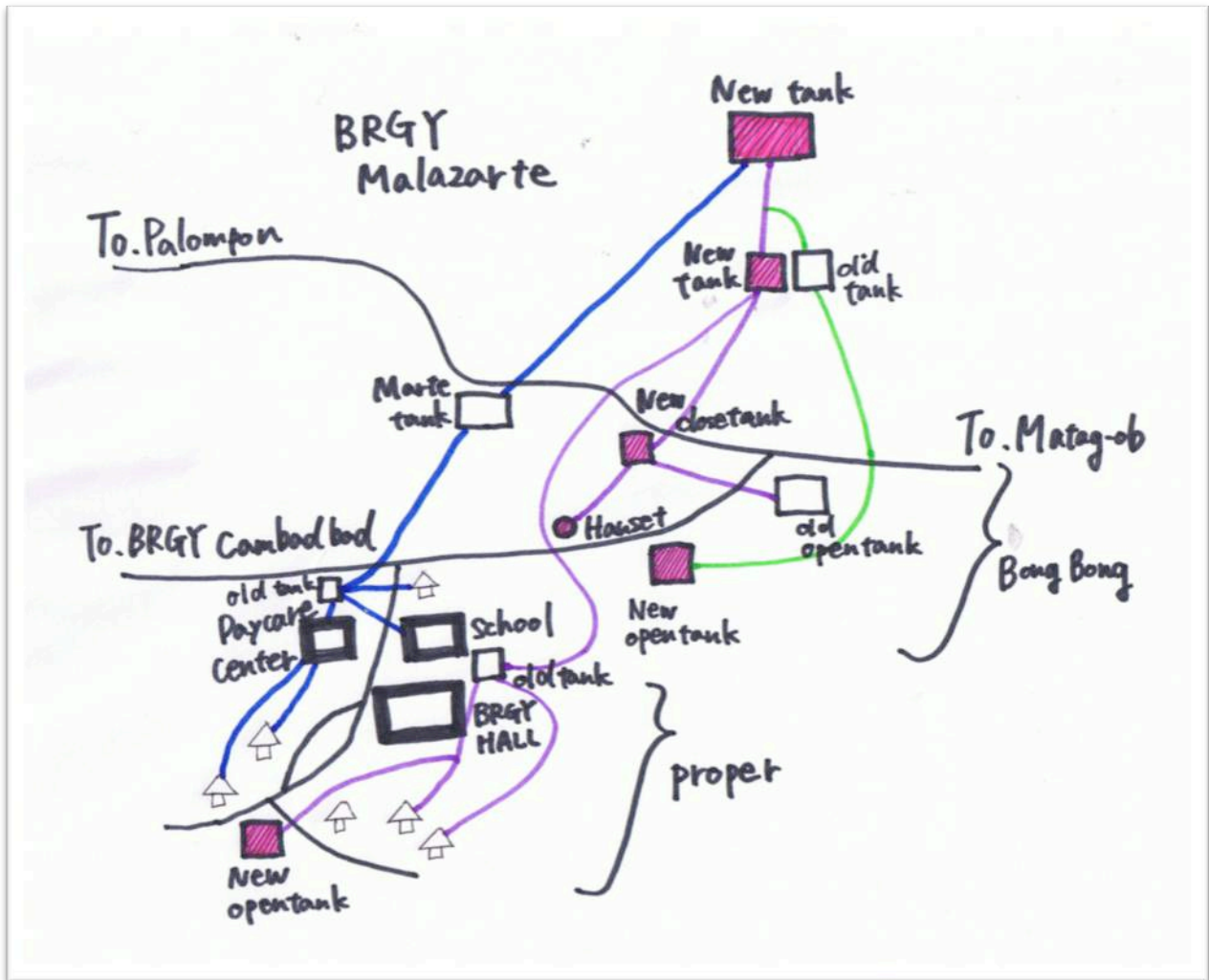
水道システムの問題自体はだいぶ改善されたようだが、まだ完全に解決したわけではなく、多少問題は残っていた。村長・村役員・プロパーの村人は水問題に関して関心が高かった。やはりプロパーは地理的に水源から遠いためにシティオ ボンボンと比べ水量が足りないようだった。私たちの滞在中、ボンボンでは晴れの日一週間目、プロパーでは四日目に水が出なくなった。

しかし、我々のプロジェクトに関して、ほとんどの村人が満足している印象を受けた。特に水汲み用タンク、蛇口は洗濯や飲み水用として日常的に使われていた。

村長や村役員は現在の水源の近く（600mほど上がったところ）に小さな水源があるため、そこに新しいタンクを作りたいと話していた。村側は再び我々がマラサルテでワークをすることを望んでいるようだったが、平等性や村の自立促進を考えてそれは実現しなかった。

多くの村人が FIWC 九州の滞在を楽しんでくれたようで、4週間のキャンプは村人にとってもいい思い出になったようだった。

マラサルテ村の Water System



9. 文房具 Evaluation 報

●文房具寄付活動とは??●

2010年のマタグオブ市サントロサリオ村でのキャンプの際、学校に行けない子どもたちや学用品の不足などを目にした下見キャンパーの発案により、日本の小中学生、個人などから寄付を募り、サントロサリオの子どもたちに寄付したことがきっかけで始まった活動。詳しくは活動ブログ(<http://fiwcqbnbg.exblog.jp/>)参照。



前回のマラサルテ村でのキャンプの際にも2009年度に集められた鉛筆・ノートを現地へ持って行き、Japanese Festival (日本の伝統的な遊びや食べ物を知ってもらうためのイベント。折り紙、なわとび、習字などをしたり、日本のおやつをふるまったりする)で行われた日本語教室の際に使用した。日本語教室の実施前に英語で活動について簡単に説明したうえで、参加した子どもたちに鉛筆を2本ずつプレゼントした。その後絵の具を使ったお絵かき教室も実施した。

●Evaluation●

Malazarte村でのキャンプ中(2011年3月5日)に行ったJapanese Festival内の日本語教室について、マラサルテの子どもたちに簡単なアンケートを行った。目的は

- ・文房具が日本の学生から寄付されたものか伝わっているか。
- ・Japanese Festivalの広報は十分だったか

を知るためである。質問と結果は以下の通り。

【質問項目】

・ Japanese festivalに参加したか？

No...なぜ参加しなかったか？

1,忙しかった、ほかの用事があった 2,イベントを知らなかった 3,その他

Yes...日本語教室で配布した文房具が日本の学生から寄付されたものと知っていたか？

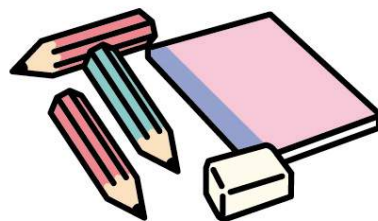
キャンパーと勉強することを楽しんだか？

【結果】(6人回答)

Japanese Festivalに参加したか?

参加した…4人

参加しなかった…2人



(参加しなかったと答えた子どもへ)

なぜ参加しなかったか?

知らなかった…2人

(参加したと答えた子どもへ)

文房具が日本人学生から寄付されたものを知っていたか?

Yes…3人 No…1人

キャンパーと勉強することを楽しんだか?

Yes…4人 No…0人

【総括】

- ・ **Evaluation** を行ったのが平日で子どもたちが学校へ行っていたため、多くの子どもへ質問をすることができなかった。
- ・ キャンパーの記憶では参加したはずの子どもが参加していないと回答した場合もあったため、**Japanese Festival** の写真などを持って行って説明すべきだった。**Japanese Festival** の感想については春キャンプ中に聞いても良かったのではないかな。
- ・ 本キャンプの時点で文房具寄付活動についてほとんど説明をしていなかったため、寄付されたことを知っている子どもも、**FIWC** のメンバー自身が文房具を寄付したと考えている可能性が高い。あくまでプレゼントとしての文房具ではあったが、やはり本キャンプ時にもう少し詳しく説明すべきだった。

※**Japanese Festival** での日本語教室は、2010年の開始時から現地で好評を得ていること、現地での活動に使用できる文房具がまだあることから、次回マサバ村でのキャンプの際にも行う予定。今回の反省を生かし、

- ・ 寄付の経緯の説明
- ・ **Japanese Festival** についての簡単な **Evaluation** をキャンプ中にきちんと行うようにしたい。

10. 生活状況

衣

フィリピンは毎日暑く、最高気温が 30℃を超える日がほとんどであり、T シャツ、半ズボン、ビーチサンダルなどかなりラフな格好で生活していた。ただし朝晩に冷え込むこともあるので（山間部の村は特に）長袖、長ズボンが最低 1 着は必要。虫さされ対策としても長袖長ズボンは使える。日差しが強いので帽子もあった方がよい。サンダル、T シャツ、ズボンなどたいていの衣類は現地でも調達でき、日本と比べて格安で購入できるため途中で服を買い足すメンバーもいた。



食

フィリピン料理は、豚肉、鶏肉、野菜、魚を醤油や塩、味の素などで味付けしたものが中心で、比較的日本人の味覚に合うものであった。主食は米でおかずが 1~3 品という献立が多かった。また、バナナ、ココナツなど亜熱帯のフルーツもたくさん食べることができた。飲み物は食事のときは水かコーラ、その他にコーヒー、カフェオレ、オレンジジュースなども飲んでいて、生水を飲むとおなかを壊す可能性があるため、必ずミネラルウォーターを飲むようにしていた。

住

Survey 期間中は River side 村にあるダディ・ドドンとマミー・サニーの家泊めてもらっていた。寝るときは女はベッド、男は床にゴザを敷き、蚊帳を張って寝た。Masaba 村滞在中はバランガイホールという村の公民館のような場所で折りたたみベッド又は床にゴザを敷いて寝るようにしていた。Evaluation で Malazarte 村に滞在したときには女は村長の家、男は村長家のすぐそばにある村役人の家に分かれてステイした。Malazarte 滞在中は近くの家のトイレ、風呂を借りることも。



【風呂】

日本のような湯船につかるお風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに溜めた水を手桶ですくって水浴びする「リーゴ」というスタイルが主である。屋外にリーゴをする場所があることもあり、その場合は服を着たまま水浴びをする。夜水浴びをすると体が冷えて風邪をひくことがあるので朝、昼に行く。シャンプーなどはオルモックでの買い物の際に購入した。

※ワーク後は身体が熱を持っているため、1~2時間おいてから水浴びすること（熱を持った状態で水浴びをするのは良くないらしい）

【洗濯】

洗濯機はないので洗濯はすべて手洗いで行った。タライに水をため、粉末洗剤で汚れを落とす。日本人は手洗いになれていないため時間がかかる&汚れが落ちない…。干すときは家の周りのロープ、竿、柵などに干していた。ハンガーやタライは近所から借りていた。



【トイレ】

便座がなく、低くて小さい洋式便器のような形のものが主流。用を足した後はポリバケツに溜めた水を手桶ですくって流す様式で、紙は流せないため、ゴミ袋を持って行き、ゴミとして捨てていた。うまく流しきれずに詰まることもあるので要注意!!

【買い物】

Masaba 村からは「ハバル」と呼ばれる中型バイクで 40 分くらいのところに Matag-ob 市のマーケットがあり、食料品、衣類、薬など生活に必要なものはほぼそこで調達することができた。また、村の中には「サリサリ」と呼ばれる小さな個人商店があり、お菓子、飲み物、お酒などちょっとした買い物をすることもできた。また、Matag-ob から車で 1 時間ほどのところにあるオルモックという港町では、村ではできない買い物や、日本円からペソへの換金などもできた。



【交通】

Surveyなどで近距離を移動するときは「ハバル」と呼ばれる中型バイクや「トライシクル」と呼ばれるバイクに屋根付きサイドカーをつけたような乗り物に3~4人乗って移動した。Masaba村やMalazarte村など市の中心部から遠い村から移動する場合は「モルティカブ」と呼ばれる軽トラックの荷台に乗って移動することが多かった。

オルモックなど遠くへ行く場合はMatag-obのターミナルから出るバスを使った。その他、空港—セブ港間はバン又はタクシー、セブ島—レイテ島間はフェリーで行き来した。バン、タクシーは高額な運賃を吹っかけてくるドライバーもいるようなので値段交渉はしっかりと行い、乗る前に料金を確かめる。また、降りるときは忘れ物がないかどうかをきちんと確認し、もしもの場合に連絡を取るためできるだけタクシーのナンバーを控えておく。



セブ⇄オルモック間を結ぶフェリー
“Super Cat”



オルモック⇄マタグオブ間の乗り合い
バス



モルティカブ。
マサバ村から買い物などに行くときはこれに乗っていく：)

1 1 . KP (Kitchen Police) 報告

➤ 仕事内容

① 食器洗いと洗濯のシフト表作成。当番は前もってキャンパーに伝えておく。
② 翌日の朝の食事時間を伝える。また、外食などで食事が不要になる場合はいつも料理を用意してくれている人にそのことを伝える。
③ ミネラルウォーターの管理をする。また、なくならないうちに買いに行く。
④ 生活用品（トイレトペーパー、ハンガー、おけ、洗剤等）を管理し場所を把握しておく。

➤ 食器洗いと洗濯について

キャンプ中、食後の食器洗いと洗濯をキャンパー全員で当番をまわす（各2名ずつ）。シフト表作成の際、それぞれのシフトでメンバーの負担が平等になるように心がける。最初の何日かはキャンプ初参加者だけにならないようにシフトを工夫するとよい（特に洗濯）。

➤ 今回の KP 反省

- ・ キャンパー全員が当番のシフト確認できるようにシフト表を作成しなかった。そのため誰が当番なのか全員が共有できておらず、キャンパー内で負担が偏っていたことを指摘できなかった。
- ・ 生活用品の管理をおろそかにし洗剤、トイレトペーパーなどを紛失してしまった。

以上を踏まえて今後、本キャンプでは管理をしっかり
と心がけ、シフト表を皆と共有し問題点を話し合ってい
けるようにすることが大切である。



12. 会計報告

[仕事内容]

- 金銭の管理
- 毎日の収支記帳
- 残金の確認

☆レート

2011.8.21~9.10

P5,200~5300/1万円

[反省]

- 疲労・お酒などのせいで、毎晩の確認ができていなかった。
- 小銭をうまくつくれなかったためメンバー間の立て替えが多かった。
- 会計係が必ず買い出しに着いて行くようにすべきだった。
→収支記帳の際にズレが生じた場合、どこで何がいくらずれたのか把握し損ねてしまうため。

[旅費総額]

航空券代	¥73,380
生活費	¥10,000
キャンプ参加費	¥1,000
+) 保険代	約¥4,300
	¥8,8680



[料金の目安]

◆ 個人費

- ・お小遣い：¥10,000 (P5,300) /人
→この中から空港税・お土産代を払ったが、全メンバーお金が余った。
- ・予備：¥10,000 (換金しない) /人
→緊急時の費用として換金せずにノルウェルに預けておく

◆ 宿泊費

- ・シランガンホテル (セブ島)
※宿泊したのは初日 (8/21) のみ
- シングルベッド P675/部屋、泊
- ダブルベッド P875/部屋、泊

◆ 空港税

行	マニラ ⇒ セブ	P200	
帰	セブ ⇒ マニラ	P200	
	マニラ ⇒ 福岡	P750	計 P1150/人 (※個人費からの支出)

◆ 交通費

- バン
(シランガン→Super Cat 乗り場) P900/台
- 船
Super Cat (セブ⇄オルモック)
エコノミークラス P720/人(行)
ビジネスクラス P875/人(帰)
- バス
(オルモック→マタグオブ) P50/人
(リブンガオ→オルモック) P20/人
- モルティカブ&ジープニー
(バラクタス→マタグオブ) P10/人
(マタグオブ→リブンガオ) P20/人
(オルモック→マタグオブ) P50/人
- ハバルハバル&トライシクル
(マタグオブ→サントロサリオ) P10/人
(サントロサリオ→サンマルセリノ) P20/人
(マタグオブ→バラクタス) P15/人
(リバーサイド→サンセバスチャン) P20/人
(マタグオブ→カンソソ) P10/人

☆収入について

- 生活費徴収
P5,200×6人=P31,200
- 繰り越し P15,365,1

徴収金	31,200
繰越金	15,365,1
<u>計</u>	<u>46,565,1</u>

★支出について

	内約	費用
交通費	Super Cat	9570
	バン	900
	バス	360
	タクシー	350
	トライシクル	60
	ハバルハバル	609
	ジープニー	150
	モルティカブ	880
	<u>小計</u>	<u>12879</u>
宿泊費	シランガンホテル	1550
	<u>小計</u>	<u>1550</u>
食費	食料	3863
	水	394
	<u>小計</u>	<u>4257</u>
携帯代	本体	990
	SIMカード×3	120
	ロード代	1895
	<u>小計</u>	<u>3005</u>
雑費	洗剤	208
	ござ×6	1378
	トイレットペーパー	55
	photo フレーム	100
	その他	86
	<u>小計</u>	<u>1827</u>
カンパ 費	Loklok さん	7200
	ガソリン代	1250
	<u>小計</u>	<u>8450</u>
合計		<u>31968</u>

1 3 . 保健報告



●仕事内容

- ・キャンパーの健康状態の把握
⇒健康管理に関する注意や呼びかけ。また、病気や怪我などで医療機関を受診したキャンパーの症状と、その時おこなった治療を記録。
- ・保健バッグの管理
⇒キャンプで必要と思われる医薬品類を出発前に日本で購入し、現地で管理。必要に応じてキャンパーに貸し出す。

●キャンパーの健康状態

キャンパー全員がキャンプ期間中を通して概ね健康であったが、怪我の傷口が化膿し、クリニックで診察を受けるキャンパーが多かった。

以下に、医療機関を受診したキャンパーの症状と原因、治療について示した。

【症例①：足の虫さされ部位の化膿（2名）】

原因	・虫よけローションを購入しておらず、多くの箇所を蚊に刺された。 ・患部を掻くなどして傷となり、そこから細菌が入った。
治療	・市役所のクリニックを受診。消毒液を塗布し、抗生剤の処方を受けた。 ・腫れがひどかった1名は、薬局にて痛み止め、消毒液、虫よけローション、コットンも合わせて購入した。

【症例②：足の巻き爪の治療跡の化膿・痛み（1名）】

原因	・患部が山道のぬかるみや川の水に触れるなど、不衛生な環境が原因か？
治療	・市役所のクリニックを受診。消毒液を塗布し、痛み止めと抗生剤の処方を受けた。

【症例③：水あたりと思われる嘔吐・下痢（1名）】

原因	・帰国前に食べたフルーツサラダにあたった可能性がある。
治療	・マニラの空港医務室にて診察を受け、痛み止め、抗生剤、補水液の処方を受けた。 ・帰国後すぐに、病院で再度診察を受けた。

※上記4名の症状はその後、いずれも快方に向かった。

※現地での診察料は4名とも無料であった。なお、重い病気や怪我の場合はオルモックの病院を受診することになるが、その際は症状によってはやや高いお金がかかる。

●現在の保健バッグの中身

バッグ①

オキシドール、包帯、ガーゼ、マキロン、ムヒ、ムヒパッチ、ムルコス、OFF!、虫よけウェットシート、酔い止め、バファリン、マスク、爪切り、体温計

バッグ②

オキシドール、包帯、ガーゼ、絆創膏、サージカルテープ、太田胃散、湿布、冷えピタ、はさみ、ピンセット

●保健バッグで使用頻度が高かったもの

【絆創膏、ガーゼ、マキロン】→怪我、虫さされによる傷に使用。

【マスク】→風邪気味のとき、就寝時に使用。

●保健バッグに今後増やすべきもの

テーピング（しっかりしたもの）、大きいサイズの絆創膏



●総括 ～本キャンプに向けて～

今回キャンパーに見られた怪我・病気等の症状は比較的軽く、いずれも未然に防ぐことができたと思われる。キャンプ期間中の健康に関しては自己管理が重要である。

以下、次回の本キャンプにおいて留意しておきたい事項をまとめた。

(1) 怪我への対策

- ・保健係は常に必要最低限の応急処置の道具（絆創膏など）は携帯しておく。
- ・足元の悪い山道でワークを行うので、スニーカーもしくはクロックス等、足先を露出しないものを履くようにする。

(2) 蚊への対策

- ・日頃から OFF!などの虫よけローションを使用する。
- ・就寝時は長袖・長ズボンを着用し、蚊帳の中で寝る。
- ・搔いて傷になった場合、早めに消毒して絆創膏で保護するなど、常に患部を清潔に。

(3) 水あたりへの対策

- ・水、水に溶かして飲む粉末ジュース、氷、フルーツサラダなどを出されたときは、必ずミネラルウォーターを使用したものかどうかを確認する。
- ・各自が持つミネラルウォーターのボトルを定期的に熱湯消毒したり、新しいボトルに買い替えたりする。

(4) 風邪・熱中症への対策

- ・就寝時は体を冷やさないように。逆に昼間は、帽子を被るなど熱中症予防に努める。

14. 他己紹介



☆まさえ☆ (リーダー)

まさえの必殺技は肉弾戦車です。監督の指示ですぐに大きくなります。「ぽんっ」って音がして大きくなります。今回のキャンプで兄弟が2人増えました。キャンプの度に新たなキャラがバレてしまうまさえ。今回はキャンプのことを本当に誰よりも想って行動するまさえがみれました。めっちゃ助けられました。超リーダーでした。さらま！次回発覚するまさえのキャラに乞うご期待！

From りょうへい

☆はるか☆ (副リーダー)

頼れる副リーダー！ミーティングや空港で大活躍でした！はるかがいなかったらどうなっていたことやら…(汗) 英語力は本当に尊敬します…☆歌うことが大好きで、マラサルテではウイングのギターに合わせて洋楽をたくさん歌ってた(▽▽) 新メンバーへの気配りもしてくれて、私自身何回も助けてもらいました！本キャンプではいろいろと大変だけど、頼りにしてますよう！！



From かなな



☆りょうへい☆ (ワークリーダー)

我らがワークリーダーりょうへい☆ お酒片手に、持ち前のノリと明るさで村人にガンガン絡んでいく姿はさすがです。バレーもできるし、ギターも弾けちゃう♪スポーツと音楽という世界の共通言語を駆使して、彼はキャンパーと村人との壁を取り払ってくれる、とても重要な存在だったと思います！！次はもっとディスコではじけよ～\(^o^)/ 今後の活躍に乞うご期待★

From かーりー

☆かーりー☆ (保健)

かーりーは薬学部です。保健係でかなりお世話になりました。市役所のメディカルセンターでカプセル薬をもらったときこの薬はね、・・・(略)、と解説をしてもらって???でしたが、流石、薬学部、ラットに投薬とか解剖をしているだけじゃないんだ！と感じました。MTG でみんなが気づかないポイントを指摘したりさまざまな視点で検証するので、はっとすることも多かったです。またマサバに行こうな!!



From すすむ



☆すすむ☆ (記録&KP)

下見キャンパー2人目の関西出身、新メンバーすすむ君。ポケ担当です！関西出身だからとってお笑いセンスを期待しちゃいけません。でも大富豪で都落ちしたときの「オー！ジーザス！」は本当にツボでした笑。そういえば蚊に刺されて足がグロテスクになってたな。お酒に弱くって、たまに無茶しちゃうけど彼は努力家です。次のキャンプに OFF と T シャツは忘れないように！！笑

From まさえ

☆かんな☆ (会計)

かんなといえば、まさえとりょーへーのかわいい妹^^そしてツンデレ。2人から散々いじられてるのを傍から見てるのは面白かった(笑)。最年少、FIメンバーを誰も知らない状況でメンバー募集にいちばんに手あげた行動力はすごいと思う!大好きな子どもたちに囲まれて幸せそうなかんなが好き:) 春キャンでは経験者としてみんなを引っ張ってくれるの期待してます(^^♪



From はるか

15. 感想

【まさえ】

——3月11日、東日本大震災発生。

地震発生当時、私はフィリピンにいた。私はホームステイ先の家で夕方のニュースを毎日見た。タガログ語で内容は理解できなかったが、日本が大変なことになっていることだけわかった。地震発生から約10日後、私たちは帰国する。そこにあるのはいつもと変わらない福岡の風景だった。無事に帰ってきたことに安堵した。帰る家があることがいかに幸せか痛感した。それと同時に、私はテレビで見ていた映像と福岡のあまりにも平穏な風景のギャップに震災という事実を正直受け入れられずにいた。

全国からボランティアが次々に被災地入りし、FIWC もいち早く現地で活動していた。その中、私たちは例年通り夏の下見キャンプの準備を始めた。何の迷いもなく。私にとって“震災”は自分の住む世界とは別ものとして捉えていたのかもしれない。夏になると長期休暇を利用して九州委員会からも数名被災地入りするようになった。私はその時初めて「被災地に行かずわざわざフィリピンでワークキャンプをする意味」を考えた。私にとって夏の下見キャンプをすることは当たり前で、被災地のことを考えるのは“当たり前”ではなかった。何故、私は被災地を差し置いてフィリピンに行くのか…果たしてそこまでの価値はあるのか…。

後付けになるかもしれないが、私はこのように考えるようになった。確かに私は日本人としてもっと被災地を支援すべきであるし、もっと被災地復興について考えるべきだ。しかし、マタグオブにも私たちを待っていてくれる人がいる。彼らは“私たち”を必要としてくれている。そして、確かにそこには、私たちの“帰る家”があった。「ワークキャンプで第二の故郷ができる」今までよく言われてきたフレーズだ。ワークキャンプに国境なんて関係ない。そこに、私たちがフィリピンでワークキャンプをし続ける意味があるのだと思った。



【はるか】

今回の下見で改めて感じたのは、私たちが実際に現地に行くということの影響の大きさだった。前回の春キャンプ前からそのことについては聞いていたし、下見前に経験者の話を聞いたりして理解しているつもりだった。だが今回プロジェクトを実際に行う立場になり、私たちが下見に行くことで村の人に期待を持たせてしまうことや、政治面で良くも悪くも影響を与えてしまうことを肌で感じ、FIとして、日本人として行動することの責任の重さ、プロジェクトを行う上で「いかにマイナスを減らすか」ということの大切さを痛感した。特にワーク地決定のときのトラブルは、私たちの下見のやり方次第では防げたのではないかと反省している。

ただ、もちろん悪い影響だけでなく、私たちが行くことでいい影響を与えられることも事実。村人と一緒に過ごし、一緒に働く中で、自分たちのプロジェクトとして現地の自助努力を促すだけでなく、友達、家族としての関係を築くことができるのがワークキャンプのいちばんの醍醐味だと思う。今回マラサルテに帰って、家族と過ごしたり村のみんなと飲んだりした時間は本当に楽しかったし、私たちの作ったタンクを使ってくれているのを見られたことで、自分たちが少しでも役に立てたことを感じられて嬉しく思った。

分からないことだらけの下見で、自分のことでいっぱいになることも多く、副リーダーとしてメンバーを支えるという役割をきちんと果たせなかったのではないかとすることも大きな反省のひとつ。次の春キャンプでは不安もあるけど、まずはワークの成功のために、そしてメンバー全員が行ってよかったと思えるような、マサバの村人みんなに私たちが来てよかったと言ってもらえるようなキャンプにするために、今回の下見キャンプで考えたことを踏まえて精いっぱい努力したい。

最後に、キャンプを支えてくれた FI のみんな、ロクロクさん、みれいさん、マタグオブの皆さん、そしてキャンパーのみんな、本当にありがとうございました！



【りょうへい】

二度目のワークキャンプ。一回目のように新しい外国の文化、人を堪能して終わるだけでは何も自分の成長につながらない、そう思ってワークリーダーになった。ただ観光にきているわけではない、せっかくの機会だからこそできることだと思った。

一回目のキャンプで自分の言語能力の低さに驚いた。でも、ワークリーダーになったからにはそんなことは言ってもらえない。そんなこと言ってもすぐに会話がうまくできるようになるわけがない。でもキャンパーみんなが支えてくれた。一人では何もできないけれども、みんなが助けてくれたから下見を無事に終えることができた。本当に感謝であふれている。ありがとう。

ワークを成功に導くために、村人をどれだけワークに乗り気にさせるかがポイントとしてあげられていた。そのために多くの村人と短時間のうちに打ち解ける必要があり、積極的な交流を図った。その方法として一番簡単かつ有用であったのが酒であった。大人の交流のツールとして世界各国共通の酒である。毎晩、外にいる人や家にいる人のところへ酒を持って行き、杯を酌み交わし、笑って語り合う。とても楽しい時間だった。異国からいきなりやってきた人間を迎えてくれる村人達は本当にすごいと思った。日本ではほとんどありえない光景だろう。そんな村人達だからこそ、こっちも一生懸命に働けるのだろうし、最高のキャンプができるのだろう。



下見キャンプの流れは基本的にこうだった。市、村人、偶然会った大工、色々なところから問題が生じている村の情報を聞き、調査に向かう。調査の日の夜にはロクロクさんを変え、キャンパーで **MTG** を毎晩遅くまで行う。口約束で事前に村を訪れることを伝える日もあれば、いきなり訪れて村長から村の状況を聞くこともあった。**MTG** で相手側が使う言語はもちろんビサヤ語。ロクロクさんがいなければ十分な情報の伝達や意思疎通はできなかったのは間違いない。常にロクロクさんの力を借りていたが、自分達でキャンプを作っているということをととても実感した。自分達がどの村を下見に行くか、下見した村にどういった判断を下すか、どこの村を次のワーク地に決定するか。全てはキャンパーの手に委ねられていた。自分達の決定次第で村のこれからが変わる。ただの大学生の集団であってもこれだけすごいことができるんだと、素直にそう思った。隆さんやしーやんさんがいつも言っていた「キャンプをつくる」という言葉の意味がようやく分かった気がする。まだキャンプは下見しか終わっていない。ロクロクさん、下見キャンパー、そしてこれから入ってくる新しいキャンパー達みんなで作る本キャンプをつくっていく。とても楽しみでもあるが、不安でもある。けれども、絶対に成功させなければならない。そのためにはキャンパー、ロクロクさん、実鈴さん、そして現地人、みんなの協力と頑張りが必要不可欠である。これから本キャンに向けての準備や実際のワーク、全力で頑張るぞー！

【カーリー】

2度目のフィリピン。前回とは違い、ゼロから新しいキャンプを作っていかなければならなかった。自分も含め全員が下見キャンプ未経験。いざ下見が始まって、毎日が分からないことの連続。私たちと現地の人々双方にとって、一体何が最良の選択なのか…それが自分の中で見えて来ず、正直、戸惑っていた。また、外国人である私たちが、フィリピンという異国の地にどう入っていけばよいのか——僕はこのことが、出発前からよく分からずにいた。言うまでもなく、現地のことはそこに住む人々が一番よく知っている。彼ら一人一人の暮らしがそこにはある。私たちは、彼らの暮らしの奥深くまでを理解することなど到底できていないのに、毎年彼らの土地でワークキャンプを”させてもらっている”。そんな私たちに対して、彼らはどのような思いを抱くのだろうか…前回抱いたのと同じ気持ちが再来していた。

結局振り返ってみると、日々のスケジュールをこなすのに精一杯で、何だかモヤモヤしたまま下見キャンプを終えてしまった気がする。あの時の選択はあれでよかったのか？私たちと村人にとって、本当に満足のいくキャンプを企画できているのだろうか？開き直りかもしれないが、これらの疑問は来春の本キャンプを終えないことには晴れないと思う。

今回の下見においては、「こうあるべき」という王道などどこにもないように思われた。しかし忘れてはならないのは、現地の行政機関やエンジニア、村人などの協力があるからこそ、私たちは毎年のようにキャンプを実施できるのだということ。そして、キャンプは私たちと現地の人々双方のものであるということ。だからこそ、そこに相手がいることを常に自覚し、お互いが納得いくまで対話を繰り返し、よりよいキャンプを作り上げていく、この過程を大切にすべきなのだ——帰国して1カ月以上が経ち、今更ながらそんなことに気付いた。



私たちには専門的な知識など何もない。それでも、やるからには、私たちがわざわざ現地に行くことに意味を持たせたい。キャンプを通して、国籍、人種、言語、文化、宗教などの壁を越えた人と人とのつながりができる。では、その先には一体何が見えてくるのだろうか？もしかすると、キャンプがただのエゴ、自己満足で終わっているのではないか？…正直なところ、これは自分でもまだ答えを出せずにいる。だからこそ、僕はこれからも現地に行き続けたい。そして、「ワークキャンプを行う意味、ワークキャンプという活動が秘める可能性とは何か？」という問いに対する答えを探し続けたいと思う。

【すすむ】

下見に参加するまでボランティアはただ単に現地に乗り込んで肉体労働をしさえすればいいと自分は考えていた。「俺は仕事さえすればいい」と村人と交流せずに過ごそうするのはダメだよなどと適当にみんなに同意しつつも「それって間違ってるのか……？」と疑問だった。

テーマ“人と人”と掲げていったものの、去年とほとんど交流という内容は変わっていないやんと内心思いつつも何も言えずにいた。キャンプは始まったが自分はまだ正直村人との交流の大切さがわからず、ただ村人が困っていることがあれば助けようという考えしかなかった。

一通り下見が終わって、前回キャンプ地マラサルテに滞在した。出発前から前回キャンプ参加者が、早く村人に会いたい！と楽しみにしていたが自分はいてもいなくてもあんまり関係ないだろうなど、どうやって6日間過ごそうかと考えていた。

着くと下見中の雰囲気とは違ってみんな明らかにリラックスしていた。生まれ育ったの故郷のように村人たちの家に訪れ、にぎやかにお酒を飲んで本キャンプ中の思い出ばなしをし、ひやかしあったり、うたを一緒に歌い、交流を楽しんでいた。皆、決して英語は上手くはないが、心は通い合っている気がした。

2日目には自然と彼らの輪の中に入れてくれた。キャンパーたちが信頼の橋を架けておいてくれたからだと思う。そうして楽しく過ごしていきマラサルテ村最後の日に何故、関係のない自分にも迎え入れてくれるのかと聞いてみた。「FIのメンバーはみんないいやつ、だからおまえもいいやつ」とあたたかく自分の存在を受け入れてくれて涙が出そうになってしまった。たった6日間だがいろいろ経験できてよかった。

今年の春以降もFIが来るからと道路を舗装していただきたい。交流があるからこそお互いやる気を出して真剣にワークに励み、プロジェクト終了後も発展し続ける。感動的な付き合いができ忘れられない思い出となる。

マサバでも交流を通じて互いに成長していき、次のキャンパーたちにも言葉・文化・人種が違ってもしばらしい時間を共有できるのを感じてもらいたいと心の底から思った。

最後に皆の足手まといになったが愚痴をもらさずしっかりフォローしてくれた皆、本当にありがとう！



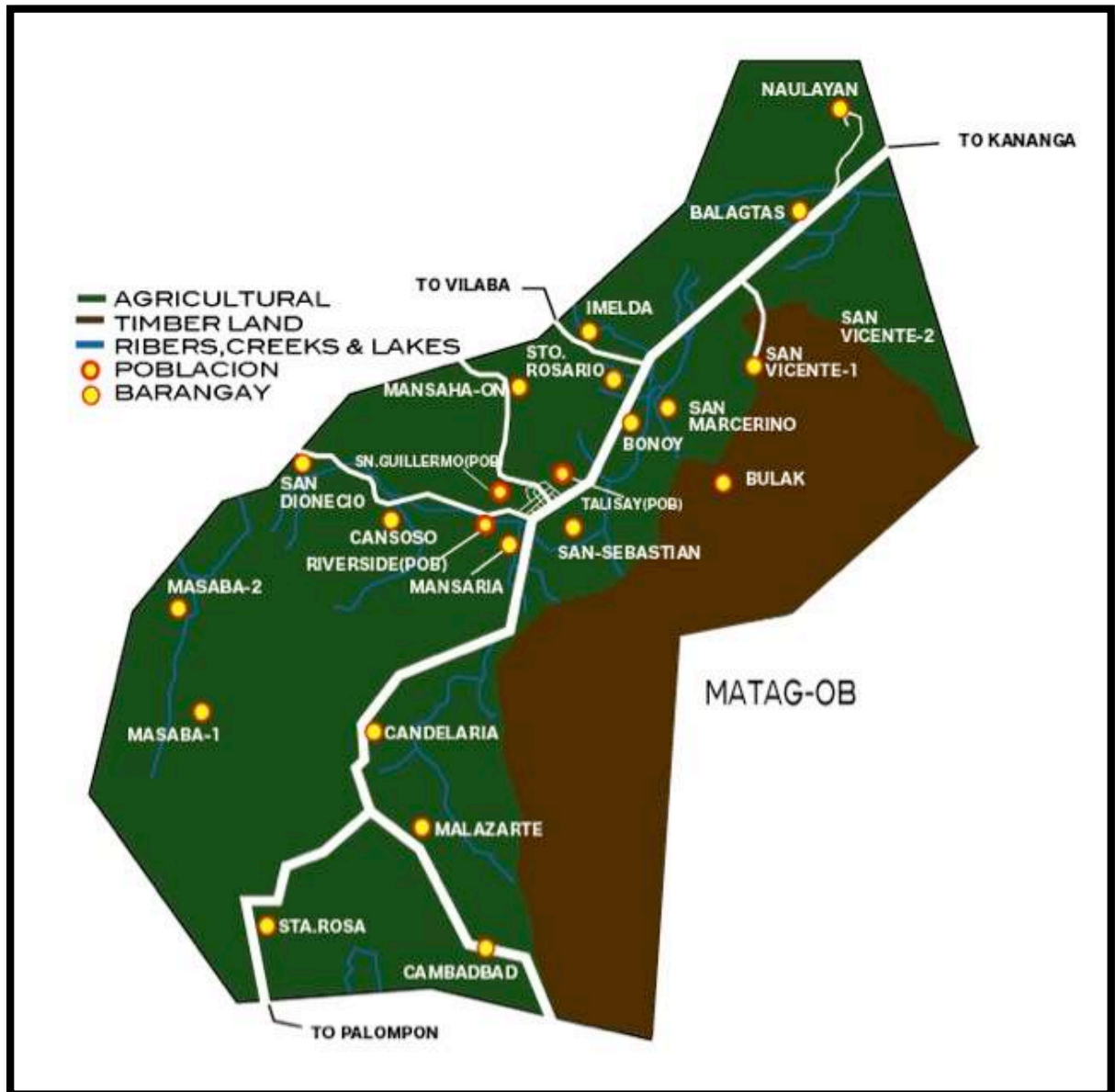
【かんな】

今回のフィリピン下見キャンプは、私にとって初めての海外渡航であり、すべてが新しいこととの出会いでした。出国前と出国直後は期待よりも不安の方が大きくて、ただひたすら無事に帰ってこれることを願っていました。フィリピンに着いて3日も経つと向こうでの生活に慣れ始め、他のキャンパー・現地の人々とも親しくなっていました。

それから本格的な Survey が始まると、本当にたくさんの人との出会いがありました。その村々の現状を知っていく中で、「本当にこの問題解決できんのかな？」と思うようになりました。前回のマラサルテでのワークを聞いてはいたけど、実際自分が下見に行って、現状を目の当たりにしたことで、いかに「ワーク」というものが難しいものなのかわかりました。今回の下見で次のワーク地はマサバに決まったものの、30年間も改善できなかった問題を、私たちが、「私」が、来年改善するんだと思うと、やっぱり現実味がなくて、不安です。（どういう心構えで本キャンプを迎えたらいいんだろう…。）現地の人々に直接会って、現地の人々と親しくなるからこそ、その人たちと同じ視線で、同じ気持ちで、その村の問題点を解決したいと強く思うようになりました。本キャンプから参加するのではなく、下見から参加したことで、マサバ以外にもたくさんの方の人々と出会うことができました。何よりうれしかったのは、マラサルテに行くことができ、輪の中に私も入れてくれたことでした。マラサルテで他のキャンパーと村人を見ていたら、確かな信頼関係がそこにはあって、本当にうらやましかったです。「また来年も絶対来て！」って言うてもらえることがこんなに嬉しいこととは思いませんでした。私も来年のワーク地のマサバでそんな関係を築きたいです。きっとそれがワークの成功にもつながると思います。ワークのことを抜きにこのキャンプを語ることはできないと思うけど、あえて言うなら、本当に本当に楽しくて充実した3週間でした。

最後に、MTG、GAM、いろんな場面でサポートしてくれたロクロクさん、毎日おいしい料理とトゥバをふるまってくれたダディドドンとマミーサニー、今回のワークへの協力を快く引き受けてくださった実玲さんに、心から感謝したいと思います。





-Map of Matag-ob-

参加キャンパー

青木雅詠 (西南大2年)
 岡崎遥 (九州大2年)
 加登僚平 (九州大2年)
 仮屋蘭侑大 (九州大4年)
 寺下進 (九州大2年)
 岩辺かな (西南大1年)

FIWC 九州 (代表: 倉富隆)
 Mail: fiwcq@hotmail.com
 Web: <http://fiwckyushu.web.fc2.com/>
 (FIWC 九州公式サイト)
 Blog: <http://fiwcqp.exblog.jp/>
 (フィリピンキャンプ最新情報)